

4 年間の学びの集大成！ 人文学部「卒業論文報告会」と 「Capstone Project Symposium」が開催されました

武蔵大学（東京都練馬区／学長：高橋徳行）では、人文学部による「卒業論文報告会」と「Capstone Project Symposium」を1月29日に開催しました。「卒業論文報告会」では、各学科から選出された優秀かつユニークな卒業論文の執筆者18名が、「Capstone Project Symposium」では、人文学部のGSC(グローバル・スタディーズコース)英語プログラム※の学生から選出された5名がそれぞれ研究発表を行いました。

※GSC(グローバル・スタディーズコース)英語プログラムは、2022年4月入学者向けカリキュラムより国際教養学部国際教養学科グローバルスタディーズ専攻（GS専攻）に移行しました。

● 卒業論文タイトル

■ 英語英米文化学科

- ・ 「アリスのファッション分析—キャロル、テニエル、19 世紀のファッションが織りなす物語—」
- ・ 「ディズニープリンセス映画の変化に見るアメリカの女性像の変容」ほか

■ ヨーロッパ文化学科

- ・ 「ヨーロッパにおける分割埋葬——ハプスブルク家の三分割埋葬を手がかりに」
- ・ 「偶像崇拜とアイドル」ほか

■ 日本・東アジア文化学科

- ・ 「宮沢賢治童話論 —登場人物の死が示すもの—」
- ・ 「安永・天明期の歌舞伎における役者と観客の関係性—五代目市川團十郎を中心に—」ほか

■ GSC（グローバル・スタディーズコース）英語プログラム

- ・ 「The Importance of the Term “Dokuoya” [Toxic Parents] in Japan」
- ・ 「Analysis on Autocratic Reversion」ほか



卒業論文報告会で発表する学生



質疑応答の様子



ポスターセッションする GSC の学生たち

— 報道関係者問い合わせ先 —

武蔵大学 広報部 担当：増田・五月女（ますだ・そうとめ）

TEL：03-5984-3813 FAX：03-5984-3727 E-mail：pubg-r@sec.musashi.ac.jp

■武蔵大学 日本で初めてリベラルアーツ教育を行った旧制高等学校がルーツ

〔アクセス：西武池袋線「江古田駅」から徒歩 6 分〕

武蔵大学のルーツは、東武鉄道や東京地下鉄道（現東京メトロ）など多くの鉄道事業に携わり「鉄道王」と呼ばれた根津嘉一郎（初代、1860～1940）が、1922（大正 11）年に私財を投じて創立した日本初の私立七年制の旧制武蔵高等学校。戦後の学制改革により、1948（昭和 23）年 4 月に新制武蔵高等学校、翌年に新制武蔵大学、新制武蔵中学校が開設され、学校法人根津育英会武蔵学園として現在に至る。一年次から 4 年間のゼミナール（小規模で対話型の授業を含む）が必修で「ゼミの武蔵」といわれる。

2012 年には、外国語や異文化を楽しみながら学ぶことのできる国際村 Musashi Communication Village（通称 MCV）を開設、キャンパス内留学の拠点とした。

2020 年 3 月には、ロンドン大学と武蔵大学とのパラレル・ディグリー・プログラムにおいて初のロンドン大学学位取得者を輩出。グローバル教育の更なる発展に力を注いでいる。

2022 年 4 月、学園創立 100 周年を迎えたこの年に、新学部となる国際教養学部を開設し、経済、人文、社会、国際教養の 4 学部 9 学科となった。

学長 高橋 德行 〒176-8534 東京都練馬区豊玉上 1-26-1

